

中華民國法院組織法（日文）

司法部

Op CARD 10

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

法 院 組 織 法

(民國二十一年十月二
十八日國民政府公布)

第一章 總 則

第一條 法院ハ民事刑事ノ訴訟案件ヲ審判シ且法律ノ定ムル所ニ依リ
非訟事件ヲ管轄ス

第二條 法院ハ左ノ三級ニ分ツ

一 地方法院

二 高等法院

三 最高法院

第三條 地方法院ノ案件審判ハ推事一人獨任ヲ以テ之ヲ行フ但案件重
大ナルトキハ三人ノ合議ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得
高等法院ノ案件審判ハ推事三人ノ合議ヲ以テ之ヲ行フ但推事一人ヲ
以テ準備及證據調手續ヲ行フコトヲ得

最高法院ノ案件審判ハ推事五人若ハ三人ノ合議ヲ以テ之ヲ行フ
第四條 合議審判ハ庭長ヲ以テ審判長ニ充ツ庭長ナク若ハ庭長不在ハ

凡屬審判官之職務者、其職務之分配、及代理順序、本法ノ定ムル
ル場合ハ庭員中ノ地位高キ者ヲ以テ之ニ充ツ、獨任審判ハ當該推事
判長ノ職權ヲ行フ
第五條 推事ノ訴訟案件審判ハ其事務分配及代理順序カ本法ノ定ムル
所ニ合ハサル場合ト雖審判ハ有效トス
第六條 高等法院分院及地方法院分院ノ訴訟案件審判及非訟事件ノ處
理ハ各當該本院ノ規定ヲ準用ス、但別ニ法律規定アルモノハ此ノ限ニ
在ラス
第七條 法院ノ設立廢止及管轄區域ノ區劃若ハ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ
定ム
第八條 各級法院及分院ノ推事ノ員數ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第二章 地方法院
第九條 縣若ハ市ニ各地方法院ヲ設ク、但其區域狹小ナルトキハ該縣
ヲ合セテ一地方法院ヲ設クルコトヲ得、其區域遼闊ナルトキハ該地方
院分院ヲ設クルコトヲ得

OP CARD 10

地方裁判所ノ管轄事件左ノ如シ
一 民事刑事ノ第一審訴訟案件但法律ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ
限ニ在ラス
二 非訟事件
第十一條 地方法院ニ院長一人ヲ置キ推事之ヲ兼任シ分院ノ行政事務
ヲ綜理ス
第十二條 地方法院ノ推事六人以上ナルトキハ民事庭刑事庭ヲ分置ス
ルコトヲ得
各庭ニ庭長一人ヲ置キ院長ヲ兼任スル推事之ニ任スル場合ヲ除クノ
外其他ノ推事中ヨリ之ヲ選任ス庭長ハ各該庭ノ事務ヲ監督シ且其ノ
事務分配ヲ定ム
第十三條 地方法院分院ニ院長一人ヲ置キ推事之ヲ兼任ス地方法院分
院長ハ當該分院ノ行政事務ヲ綜理ス但分院ノ推事員數一人ナルトキ
ハ院長ヲ置カス當該推事當該分院ノ行政事務ヲ兼理ス

第十條 地方裁判所ノ管轄事件左ノ如シ
一 民事刑事ノ第一審訴訟案件但法律ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ
限ニ在ラス
二 非訟事件
第十一條 地方法院ニ院長一人ヲ置キ推事之ヲ兼任シ分院ノ行政事務
ヲ綜理ス
第十二條 地方法院ノ推事六人以上ナルトキハ民事庭刑事庭ヲ分置ス
ルコトヲ得
各庭ニ庭長一人ヲ置キ院長ヲ兼任スル推事之ニ任スル場合ヲ除クノ
外其他ノ推事中ヨリ之ヲ選任ス庭長ハ各該庭ノ事務ヲ監督シ且其ノ
事務分配ヲ定ム
第十三條 地方法院分院ニ院長一人ヲ置キ推事之ヲ兼任ス地方法院分
院長ハ當該分院ノ行政事務ヲ綜理ス但分院ノ推事員數一人ナルトキ
ハ院長ヲ置カス當該推事當該分院ノ行政事務ヲ兼理ス

OP CARD 10



第十四條 地方法院院長ハ本院ノ推事ヲ派シテ分院ノ推事ノ職務ヲ兼行セシムルコトヲ得

第十五條 地方法院分院ノ管轄事件ハ地方法院ニ同シ

第三章 高等法院

第十六條 省若ハ特別區域ニハ各高等法院ヲ置ク但其區域遼闊ナルト
キハ高等法院分院ヲ設クルコトヲ要ス

第六七條 高等法院ノ管轄事件左ノ如シ

一 内亂外患及國交妨害ニ關スル刑事第一審訴訟案件

二 地方法院及其ノ分院ノ第一審判決ニ服セス上訴シタル民事刑事案件訴訟案件

三 地方法院及其ノ分院ノ裁定ニ服セス抗告シタル案件

第十八條 高等法院ニ院長一人ヲ置キ簡任推事之ヲ兼任ス全統行政事務ヲ綜理シ且所屬ノ行政事務ヲ監督ス

第九條 高等法院ニ民事庭刑事庭ヲ置ク要庭數ハ事務ノ繁簡ニ依リ



之ヲ定ム

各庭ニ庭長一人ヲ置キ簡任推挙之ニ任スル場合ヲ除クノ外其他ノ
事中ヨリ之ヲ選任ス各該庭事務ヲ監督シ且其分配ヲ定ム

第二十條 高等法院分院ノ管轄事件ハ高等法院ニ同シ

第十二條乃至第十四條ノ規定ハ高等法院分院ニ之ヲ準用ス

第四章 最高法院

第二十一條 最高法院ハ（國民政府）ノ所在地ニ之ヲ設ク

第二十二條 最高法院ノ管轄事件左ノ如シ

一 高等法院及其分院ノ第一審判決ニ服セス上訴シタル刑事訴訟案
件

二 高等法院及其分院ノ第二審判決ニ服セス上訴シタル民事刑事訴
訟案件

三 高等法院及其分院ノ裁定ニ服セス抗告シタル案件

四 非常上訴案件

第二十三條 最高法院ニ院長一人ヲ置キ特任トス全院行政事務ヲ綜理
シ且推事ヲ兼任ス
第二十四條 最高法院ニ民事庭刑事庭ヲ置ク其庭數ハ事務ノ繁簡ニ依
リ之ヲ定ム
各庭ニ庭長一人ヲ置キ院長之ヲ兼任スル場合ヲ除クノ外其他ノ推事
中ヨリ之ヲ選任ス各該庭事務ヲ監督シ且其分配ヲ定ム
第二十五條 最高法院各庭ノ案件審理ニ於テ法律上ノ見解ニ關シ本庭
庭長他庭ノ判決先例ト異ルトキハ院長ヨリ（司法院院長）ニ判例變
更會議ノ召集ヲ申請シテ之ヲ決定スルコトヲ要ス
第五章 檢察署及檢察官ノ配置
第二十六條 最高法院ニ檢察署ヲ設ケ檢察官若干人ヲ置キ一人ヲ以テ
檢察長トス其他ノ法院及分院ニ各檢察官若干人ヲ置キ一人ヲ以テ首
席檢察官トス其檢察官ノ員數一人ナルトキハ首席檢察官ヲ置カス
第二十七條 各級法院及分院ニ配置スル檢察官ノ員數ハ法律ヲ以テ之

第二十三條 最高法院ニ院長一人ヲ置キ特任トス全院行政事務ヲ綜理
シ且推事ヲ兼任ス
第二十四條 最高法院ニ民事庭刑事庭ヲ置ク其庭數ハ事務ノ繁簡ニ依
リ之ヲ定ム
各庭ニ庭長一人ヲ置キ院長之ヲ兼任スル場合ヲ除クノ外其他ノ推事
中ヨリ之ヲ選任ス各該庭事務ヲ監督シ且其分配ヲ定ム
第二十五條 最高法院各庭ノ案件審理ニ於テ法律上ノ見解ニ關シ本庭
庭長他庭ノ判決先例ト異ルトキハ院長ヨリ（司法院院長）ニ判例變
更會議ノ召集ヲ申請シテ之ヲ決定スルコトヲ要ス
第五章 檢察署及檢察官ノ配置
第二十六條 最高法院ニ檢察署ヲ設ケ檢察官若干人ヲ置キ一人ヲ以テ
檢察長トス其他ノ法院及分院ニ各檢察官若干人ヲ置キ一人ヲ以テ首
席檢察官トス其檢察官ノ員數一人ナルトキハ首席檢察官ヲ置カス
第二十七條 各級法院及分院ニ配置スル檢察官ノ員數ハ法律ヲ以テ之

OPCARD 10

第二十八條 檢察官ノ職權左ノ如シ
一 偵査ノ實施公訴ノ提起公訴ノ實行自訴ノ協助自訴ノ豫當及刑事
裁判執行ノ指揮
二 其ノ他法律ノ定ムル職務ヲ執行
第二十九條 檢察官ハ法院ニ對シ獨立シテ其職權ヲ行フ
第三十條 檢察官ハ其配置法院管轄區域内ニ於テ職務ヲ執行ス但緊急
ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三十一條 檢察官ハ監督長官ノ命令ニ服從ス
第三十二條 檢察長及首席檢察官ハ自ラ所屬檢察官ノ事務ヲ處理スル
コトヲ得且所屬檢察官ノ事務ヲ所屬其ノ他ノ檢察官ニ移轉シテ處理
セシムルコトヲ得
第六章 推察檢察官ノ任用及待遇
第三十三條 推察及檢察官ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ニ非サルハ之ヲ

ヲ定ム

第二十八條 檢察官ノ職權左ノ如シ

一 偵査ノ實施公訴ノ提起公訴ノ實行自訴ノ協助自訴ノ豫當及刑事
裁判執行ノ指揮

二 其ノ他法律ノ定ムル職務ヲ執行

第二十九條 檢察官ハ法院ニ對シ獨立シテ其職權ヲ行フ

第三十條 檢察官ハ其配置法院管轄區域内ニ於テ職務ヲ執行ス但緊急
ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 檢察官ハ監督長官ノ命令ニ服從ス

第三十二條 檢察長及首席檢察官ハ自ラ所屬檢察官ノ事務ヲ處理スル
コトヲ得且所屬檢察官ノ事務ヲ所屬其ノ他ノ檢察官ニ移轉シテ處理
セシムルコトヲ得

第六章 推察檢察官ノ任用及待遇

第三十三條 推察及檢察官ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ニ非サルハ之ヲ

任用スルコトヲ得ス

一 司法官試験ニ合格シ且實習期間満了シタル者

二 曾テ二年以上公立若ハ認定ノ大學獨立學院專門學校ニ於テ法律
法律科目ヲ教授シ且審査ニ合格シタル者

三 曾テ一年以上推事若ハ檢察官ニ在任シ審査ニ合格シタル者

四 三年以上公立若ハ認定ノ大學獨立學院專門學校ニ於テ法律學科
ヲ修習シ卒業證書ヲ有シ且曾テ薦任司法行政官ニ任シ二年以上民
刑事件ヲ處理シタル者

五 三年以上律師ノ職務ヲ執行シ審査ニ合格シタル者

六 曾テ教育部ノ認可シタル國內又ハ國外ノ大學獨立學院專門學校
ヲ卒業シ法學上ノ専門ノ著作アリ審査ニ合格シ且實習期間満了シ
タル者

第三十四條 地方法院及其分院ノ推事及檢察官ハ薦任トス

高等法院ノ推事ハ一人ヲ簡任トシ其ノ他ハ薦任トス

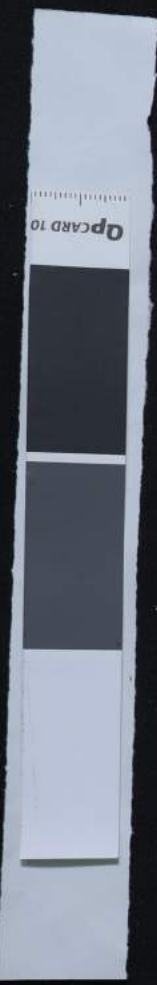
一 高等法院ノ檢察官ハ薦任トス
二 高等法院分所ノ推事及檢察官ハ薦任トス
三 最高法院ノ推事ハ簡任トス
四 最高法院檢察署ノ檢察官ハ簡任トス
五 第三十五條 推事若ハ檢察官ノ初任者ハ地方法院若ハ其分院ノ推事若ハ檢察官ニ試署ス若シ推事檢察官ノ職位無キトキハ暫ク候補推事若ハ候補檢察官トシテ地方法院若ハ其分院ニ分屬セシメテ事務ヲ取扱ハシム
六 前項ノ試署期間ハ一年トシ期間満了後成績ヲ考査シ合格シタル者ハ直チニ本官ニ補任スルコトヲ要ス
七 第三十六條 地方法院ノ院長ヲ兼任スル推事及地方法院ノ首席檢察官
八 高等法院ノ薦任推事及檢察官高等法院分院ノ推事及檢察官ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス
九 一 曾テ推事若ハ檢察官ノ任ニ在ルコト三年以上ノ者

高等法院ノ檢察官ハ薦任トス
高等法院分所ノ推事及檢察官ハ薦任トス
最高法院ノ推事ハ簡任トス
最高法院檢察署ノ檢察官ハ簡任トス
第三十五條 推事若ハ檢察官ノ初任者ハ地方法院若ハ其分院ノ推事若ハ檢察官ニ試署ス若シ推事檢察官ノ職位無キトキハ暫ク候補推事若ハ候補檢察官トシテ地方法院若ハ其分院ニ分屬セシメテ事務ヲ取扱ハシム
前項ノ試署期間ハ一年トシ期間満了後成績ヲ考査シ合格シタル者ハ直チニ本官ニ補任スルコトヲ要ス
第三十六條 地方法院ノ院長ヲ兼任スル推事及地方法院ノ首席檢察官
高等法院ノ薦任推事及檢察官高等法院分院ノ推事及檢察官ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス
一 曾テ推事若ハ檢察官ノ任ニ在ルコト三年以上ノ者

OPCARD 10

第三十八條 最高法院ノ院長ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ヨリ選任スル
コトヲ要ス但シ（司法院院長）之ヲ兼任スルトキハ此ノ限ニ在ラス
一 曾テ簡任推事若ハ檢察官ニ任セラレ在任五年以上ノ者
二 曾テ簡任推事若ハ檢察官ニ任セラレ在任二年以上ニシテ且簡任
行政官ニ任セラレ在任五年以上ノ者
第三十九條 推事檢察官ハ在職中左記ノ事務ヲ爲スコトヲ得ス
一 有給又ハ無給ノ公職ヲ兼任スルコト但法律ニ別段ノ規定アルト
キハ此ノ限ニ在ラス
二 商業ヲ兼營シ又ハ其ノ他公務員ノ爲スヘカラサル業務ヲ兼營ス
ルコト
第四十條 實任推事ハ法定ノ原因アリ且法定ノ手續ニ依ルニ非サレハ
停職免職轉職若ハ減俸セシムルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ轉職ノ場合ヲ除クノ外實任檢察官ニ之ヲ準用ス

後援官ニ任セラレ且第三十三條第二號ノ資格ヲ有スル者
第三十八條 最高法院ノ院長ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ヨリ選任スル
コトヲ要ス但シ（司法院院長）之ヲ兼任スルトキハ此ノ限ニ在ラス
一 曾テ簡任推事若ハ檢察官ニ任セラレ在任五年以上ノ者
二 曾テ簡任推事若ハ檢察官ニ任セラレ在任二年以上ニシテ且簡任
行政官ニ任セラレ在任五年以上ノ者
第三十九條 推事檢察官ハ在職中左記ノ事務ヲ爲スコトヲ得ス
一 有給又ハ無給ノ公職ヲ兼任スルコト但法律ニ別段ノ規定アルト
キハ此ノ限ニ在ラス
二 商業ヲ兼營シ又ハ其ノ他公務員ノ爲スヘカラサル業務ヲ兼營ス
ルコト
第四十條 實任推事ハ法定ノ原因アリ且法定ノ手續ニ依ルニ非サレハ
停職免職轉職若ハ減俸セシムルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ轉職ノ場合ヲ除クノ外實任檢察官ニ之ヲ準用ス



候補推事若ハ候補檢察官ノ手當ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

優良ナル者ハ簡任職ヲ以テ待遇スルコトヲ得

第七章 書記官及通譯

トキハ書記官長ヲ擢ル

院分院の書記官長及書記官ハ總テ委任トス

四十六條 各級法院及分院ノ書記官ノ員數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 各級法院及分院ノ書記官ノ員數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

四十七條 各級法院及分院ノ書記官長及書記官ハ長官ノ命令ニ服從
シテ職務ヲ執行ス
書記官ハ法院ノ開庭審判ノトキ職務ヲ執行スル場合ハ審判長ノ命令
ニ服從シ推事ニ隨從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該推事ノ命令ニ服
從ス
前項ノ命令ニシテ筆錄若ハ其他ノ文件ノ記載若ハ變更ニ係ル場合ニ
於テ其記載若ハ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ書記官ハ自己ノ意見
ヲ附記スルコトヲ得
四十八條 委任ノ書記官長及書記官ハ書記官試験ニ合格シ若ハ會テ
二年以上法律學科ヲ修習シ卒業證書ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ任命
スルコトヲ得ス
屬任書記官長及書記官ハ會テ二年以上委任書記官長又ハ書記官ニ在
任シ若ハ屬任公務員ノ資格ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ任命スルコト
ヲ得ス

四十九條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十一條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十二條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十三條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十四條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十五條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十六條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十七條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十八條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
五十九條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十一條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十二條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十三條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十四條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十五條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十六條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十七條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十八條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
六十九條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得
七十條 書記官ハ長官ノ命令ニ服從シテ職務ヲ執行スル場合ハ當該長官ノ命令ニ服從スルコトヲ得

OP CARD 10

一 裁判官の職務
二 裁判官の選任
三 裁判官の免職
四 裁判官の懲戒
五 裁判官の報酬
六 裁判官の退職
七 裁判官の死後
八 裁判官の遺族
九 裁判官の相続
十 裁判官の遺言
十一 裁判官の遺囑
十二 裁判官の遺贈
十三 裁判官の遺贈の取消
十四 裁判官の遺贈の無効
十五 裁判官の遺贈の撤回
十六 裁判官の遺贈の撤回の取消
十七 裁判官の遺贈の撤回の無効
十八 裁判官の遺贈の撤回の撤回
十九 裁判官の遺贈の撤回の撤回の取消
二十 裁判官の遺贈の撤回の撤回の無効

二 法令ニ依リ執達員ノ執行スハキ裁判ノ執行

三 其他職務上ノ事項

五十三條 各級法院及分院ニ相當員數ノ庶丁ヲ置ク

五十四條 檢察官ハ司法警察ヲ調度スルコトヲ得推察カ自訴案件ヲ

取扱フ場合亦同シ

調度司法警察章程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九章 司法年度及事務分配

五十五條 司法年度ハ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日迄トス

五十六條 各級法院及分院並ニ最高法院檢察署ノ職務規則ハ命令ヲ

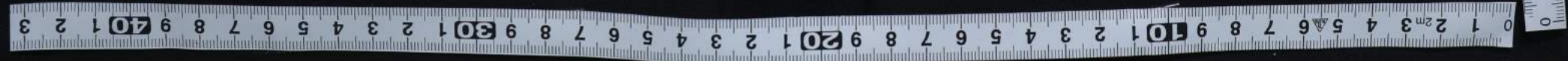
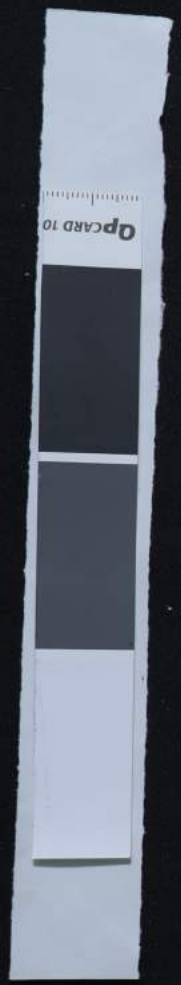
以テ之ヲ定ム

五十七條 各級法院ハ職務規程及其他ノ法令ニ依リ毎年度ノ終ニ於

テ會議シ六年度ノ司法事務ノ分配及代理順序ヲ豫定ス但法院ニ推事

二人ノミヲ置ク場合ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

合議審判ノ法院前項ノ會議ヲ爲ストキハ同時ニ次年度ノ合議審判ノ



原ノ推事ノ配置ヲ豫定スルコトヲ要ス

第五十八條 前條ノ會議ハ院長ヲ以テ主席トス其ノ決議ハ過半数ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

可否同數ナルトキハ主席之ヲ裁決ス

第五十九條 各級法院ノ分院第五十七條ノ規定ニ依リ事務分配代理順序若ハ合議審判ノ際ノ推事ノ配置ヲ豫定シタルトキハ其ノ本院ニ之ヲ報告スルコトヲ要ス

第六十條 事務分配及合議審判ノ際ノ推事ノ配置ハ之ヲ豫定シタル後案件ノ増加推事ノ去職若ハ其他ノ事故ニ因リ案件遲延ノ虞アルトキハ前三條ノ規程ヲ準用ス

第六十一條 地方法院及其分院ノ推事事故アルトキハ地方法院院長候補推事ニ命シテ其職務ヲ代理セシムルコトヲ得
高等法院及其分院ノ推事事故アルトキハ高等法院院長下級法院ノ推事ヲ調用シテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

最高法院ノ推事故アルトキハ最高法院院長下級法院ノ推事ヲ調用
シテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六十二條 各級法院及分院ノ既ニ分配シタル事務カ本司法年度内ニ
於テ尙完結セサルトキハ分配ヲ受ケタル當該庭若ハ推事之ヲ繼續完
結ス

第十章 法院ノ開閉及秩序

第六十三條 法院ハ法院内ニ之ヲ開ク但シ法律ニ別段ノ規定アルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 高等法院若ハ地方法院ハ必要アル場合ニ於テハ管轄區域
内ニシテ未タ分院ヲ設ケサル地方ニ於テ臨時ニ開庭スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ其推事ハ本院推事中ヨリ指定派遣スル場合ヲ除
クノ外高等法院ニ在リテハ所屬分院若ハ地方法院ノ推事ヲ以テ之ニ
充ツルコトヲ得地方法院ニ在リテハ所屬分院ノ推事ヲ以テ之ニ充ツ
ルコトヲ得

第六十五條 訴訟ノ辯論及裁判ノ宣示ハ法庭ヲ公開シテ之ヲ行フコト

ヲ要ス但シ公共ノ秩序若ハ善良ノ風俗ヲ妨害スル虞アルトキハ法院
ノ決議ヲ經テ之ヲ公開セサルコトヲ得

第六十六條 審判長ハ法庭ノ開閉及訴訟ノ審理ニ付之カ指揮ノ權ヲ有
ス

第六十七條 審判長ハ開庭中法庭ノ秩序ヲ維持スルノ權ヲ有ス

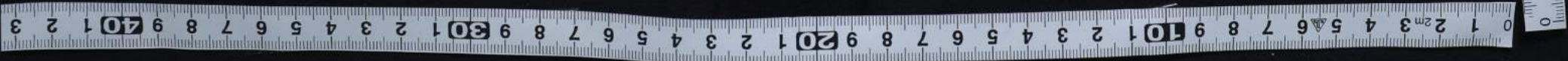
第六十八條 法庭ヲ公開セサル場合ニ於テハ審判長之ヲ公開セサル理
由ヲ宣示スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ審判長ハ妨礙ナキ者ノ旁聴ヲ允許スルコトヲ得
第六十九條 法庭ノ職務執行ヲ妨害シ若ハ其他不當ノ行爲アル者ニ對

シテハ審判長之ニ退庭ヲ命スルノ場合ヲ除クノ外尙事情ヲ酌量シ輕
重ヲ分別シテ左記ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 陪審ニ至ル迄看管ヲ命スルコト

二 三日以下ノ拘留若ハ十圓以下ノ罰鍰ニ處スルコト



第七十條 前條ノ處分ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第七十一條 律師法庭ニ於テ訴訟ヲ代理シ若ハ案件ノ辯護ヲ爲ス場合
其ノ言語行動ニ不當ナルモノアルトキハ審判長ハ警告ヲ加ヘ又ハ其
代理若ハ辯護ヲ禁止スルコトヲ得律師ニ非スシテ訴訟代理人若ハ辯
護人タル者亦同シ

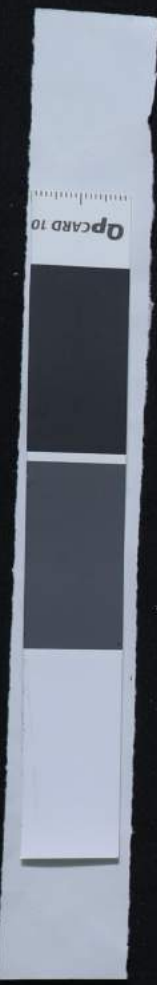
第七十二條 審判長第六十九條若ハ第七十一條ノ處分ヲ爲シタルトキ
ハ其ノ事由ヲ筆録ニ明記スルコトヲ要ス

第七十三條 推事及書記官法庭ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ制服ヲ着
用スルコトヲ要ス檢察官及律師法庭ニ於テ職務ヲ執行スルトキ亦同
シ

第十一章 法院ノ用語

第七十四條 法院審判ヲ爲ストキハ中國語ヲ用フルコトヲ要ス

第七十五條 訴訟當事者及證人鑑定人等ニシテ中國語ニ通セサル者アル
ルトキハ通譯之ヲ傳聞ス其ノ推事ノ用フル言語ニ通セサル者アルト



第八十二條 議決ハ過半ノ賛成ニシテ爲ス
 第八十三條 評議ノ場合各推事ノ意見ハ評議簿ニ記載スルコトヲ要ス
 但秘密ヲ嚴守スルコトヲ要ス
 第十三章 法律上ノ協助
 第八十四條 法院ノ事務處理ハ相互ニ協助スルコトヲ要ス
 第八十五條 檢察官ノ職務執行ハ相互ニ協助スルコトヲ要ス
 第八十六條 書記官ハ權限内ノ事務ニ付テハ相互ニ協助スルコトヲ要ス
 執達員亦同シ
 第十四章 司法行政ノ監督
 第八十七條 司法行政ノ監督ハ左記ノ規定ニ依ル

金額ニ關シ推事ノ意見三說以上ニ分レ各過半数ニ達セサルトキハ最高額ノ意見ヲ以テ順次ニ次高額の意見ニ算入シ過半数ニ達シテ止ム
 別當ニ關シ推事ノ意見三說以上ニ分レ各過半数ニ達セサルトキハ被
 告ニ最不利ナル意見ヲ以テ順次ニ次ノ不利ナル意見ニ算入シ過半数
 ニ達シテ止ム
 第八十三條 評議ノ場合各推事ノ意見ハ評議簿ニ記載スルコトヲ要ス
 但秘密ヲ嚴守スルコトヲ要ス
 第十三章 法律上ノ協助
 第八十四條 法院ノ事務處理ハ相互ニ協助スルコトヲ要ス
 第八十五條 檢察官ノ職務執行ハ相互ニ協助スルコトヲ要ス
 第八十六條 書記官ハ權限内ノ事務ニ付テハ相互ニ協助スルコトヲ要ス
 執達員亦同シ
 第十四章 司法行政ノ監督
 第八十七條 司法行政ノ監督ハ左記ノ規定ニ依ル

OPCARD 10

- 一 (司法院院長) ハ最高法院院長ト共ニ最高法院ヲ監督ス
- 二 (司法行政部部長) ハ最高法院ニ設ケタル檢察署及高等法院以下各級法院及分院ヲ監督ス
- 三 高等法院院長ハ該法院及所屬下級法院及其ノ分院ヲ監督ス
- 四 高等法院分院院長ハ該分院及所屬下級法院及其ノ分院ヲ監督ス
- 五 地方法院院長ハ該法院及其ノ分院ヲ監督ス
- 六 檢察長ハ全國ノ檢察官ヲ監督ス
- 七 高等法院主席檢察官ハ該省若ハ該特別區域内ノ檢察官ヲ監督ス
- 八 高等法院分院首席檢察官ハ該區域内ノ檢察官ヲ監督ス
- 九 地方法院首席檢察官ハ該院及分院ノ檢察官ヲ監督ス
- 八十八條 前條ノ規定ニ依リ監督權ヲ有スル者ハ監督ヲ受クル者ニ對シ左記ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 一 職務上ノ事項ニ關シ命令ヲ發シ注意セシムルコト
- 二 職務ノ廢弛權限ノ侵越若ハ不謹慎ノ行爲アル者ニ對シテハ警告

一 監獄長官ハ監獄ノ事務ヲ監督スルコトヲ得
二 監獄長官ハ監獄ノ秩序ヲ維持スルコトヲ得
三 監獄長官ハ監獄ノ衛生ヲ維持スルコトヲ得
四 監獄長官ハ監獄ノ安全ヲ維持スルコトヲ得
五 監獄長官ハ監獄ノ教育ヲ維持スルコトヲ得
六 監獄長官ハ監獄ノ職業ヲ維持スルコトヲ得
七 監獄長官ハ監獄ノ娯樂ヲ維持スルコトヲ得
八 監獄長官ハ監獄ノ衛生ヲ維持スルコトヲ得
九 監獄長官ハ監獄ノ安全ヲ維持スルコトヲ得
十 監獄長官ハ監獄ノ教育ヲ維持スルコトヲ得
十一 監獄長官ハ監獄ノ職業ヲ維持スルコトヲ得
十二 監獄長官ハ監獄ノ娯樂ヲ維持スルコトヲ得

ヲ加フルコト

第八十九條 監督ヲ受クル者ニシテ前條第二號ノ事情アリテ情狀輕カ
ラス若ハ警告ヲ爲スモ改悛セサルトキハ監督長官ハ公務員懲戒法ニ
依リ之ヲ處理スルコトヲ得

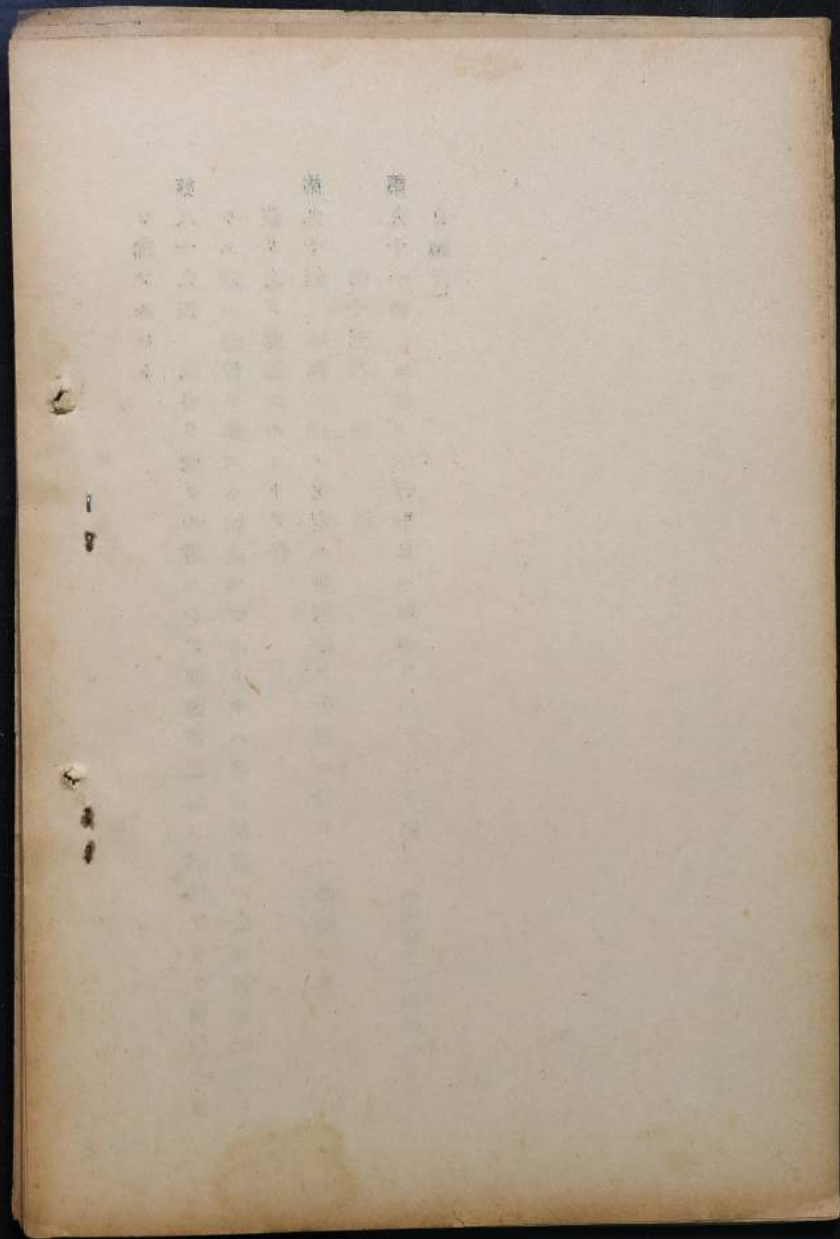
第九十條 本章各條ノ規定ハ審判權ノ行使ニ付テハ影響セス

第十五章 附 則

第九十一條 本法ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム (民國二十四年七月一
日施行)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31



QPCARD 10